



コロナ禍からの復活を期すタイの今

シムプラング・ナッタデット
CHOOMPLANG NATTADECH

●タイ国立タマサート大学 (Puey Ungphakorn School of Development Studies) 助教授

世界保健機関 (WHO) が新型コロナウイルス感染症を「パンデミック (世界的大流行)」と形容してから2年半が経過し、アジア諸国は新型コロナとの「共生」に舵を切った。観光業が国内総生産 (GDP) の2割近くを占める「観光大国」のタイは、周到な経過を経て新型コロナ対策の規制撤廃を行い、10月にも新型コロナを一定の地域や周期で発生する「エンデミック (一定期間で繰り返される流行)」とみなし、パンデミックから新型コロナとの共生「新常态 (ニューノーマル)」への移行に挑んでいる。

感染拡大の抑え込みを果たした医療体制

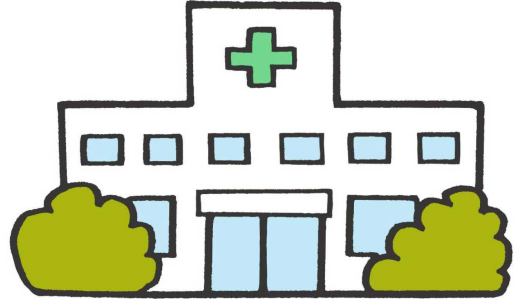
世界中で新型コロナが猛威を振るう中、タイはウイルスの早期収束で一気に注目されるようになった。その一番の背景にあるのが、タイの医療現場で見られた低い死亡率、低重症化、そして徹底した感染抑制体制だった。その理由としては、低料金もしくは無料で医療サービスが受けられるユニバーサル・ヘルスケア・カバレッジ (UC) の存在が大きいという。タクシン政権下で始まった本人負担30パーツ (約100円) の国民医療保障制度、通称「30パーツ医療」は公立病院が主な対象だが、政府が新型コロナへの適用を決めたのも2020年3月2日と早かった。医療体制の早期の整備が、病院による患者のたらい回しを防ぎ、未曾

有の感染拡大を予防したとの見解が広がっている。これまで欧米などの国際社会からは医療水準や設備などの面で、一部の大手病院しか見向きもされなかったタイの医療機関だったが、公立病院や公的医療を支える民間病院の裾野の広さ、国民医療保障制度などの下支えも、新型コロナの感染抑制に大きな役割を果たしたといえるだろう。

「危険感染症」から「監視対象感染症」への移行後の対策

タイCOVID-19状況管理センターは、10月1日から新型コロナウイルス感染症の分類を「危険感染症」から「監視対象感染症」に変更することに伴い、同機関の運営を停止し、その責務をタイ保健省に移管することと表明した。同時に医療的なアドバイスが必要な人のために、新しい遠隔医療アプリが利用できるようになったと付け加えた。

「Clicknic」や「MorDee」などのアプリは、薬の配達やコンサルティングサービスを提供し、様々な診療所の医師による遠隔診断が行われることとなっている。「監視対象感染症」とはインフルエンザ、デング熱などと同レベルの危険度となったということではあるが、「エンデミック化 (風土病化)」に関しては、「監視対象感染症になってもまだエンデミックにはならない」として、感染した際の対処法は従来通り「7日間の自宅隔離+3



日間の自己観察」。予防接種、医薬品の配布、医療サービスでの治療など、病気の蔓延を防ぐための公衆衛生の運用システムにも変化はない。感染症としての分類を変更しても、周囲に人がいる場合は、マスクの着用が引き続き推奨されると述べている。もっともマスクの「義務化」はしばらく前に取り下げられたが、ほとんどのタイ国民は、屋外で一人である場合でも、まだマスクを着用していて、きれい好きな国民性が感染防止に役立っているように見えて好ましい。

コロナ収束後、経済回復への期待

2022年現在、入院を伴う新規感染者数は、9月以降500人を下回り、減少傾向がみられ、陽性者数も減少が続く。1日あたりの死亡者数も10～15人に減少している。日本との人口比が半分である事を考慮しても、優秀な結果を収めていると言える。新型コロナ禍からの脱却、一国では図れないコロナ禍からの終息にはまだ道半ばと言わざるをえないが、タイにおける感染拡大は収束しつつあると見られる。

タイは世界中から観光客が訪れる世界有数の観光大国ではあるが、これまでの2年半は、国内外の人の動きが大きく制限され、観光客が入国できない状況が続いていたことから、観光産業に甚大なダメージが生じていた。タイ中央銀行は、タイ

経済は2021年第3四半期（7～9月）に底を打ったとの認識を示した。その背景として、ワクチンの接種拡大、政府の規制緩和、2021年11月から開始した外国人旅行者の本格的な受け入れ再開などによって景気が回復基調に入ったことを挙げている。その一方、エネルギー価格の上昇、新型コロナの新たな変異株の発生など、経済の不確実性は継続している。タイ政府はコロナ対策の緩和により経済再建を急ぐ。

収束から共存へ

タイの首都バンコクは、平時に戻りつつあり、街中には欧米人観光客の姿も以前のように見かけられるようになった。「感染は怖い、しっかり感染対策さえ取ればマイペンライ。もう新型コロナにかまっていられない」、背に腹は変えられないというのが現実なのだろう。

グローバルに見ても、タイはCOVID-19に対して早期から徹底した入国規制を実施し、医療体制を整えて、世界的パンデミックに備え、応じた国といえる。今は、科学的合理的な知見を無視せず、「収束から共存へ」という発想の切り替えが必要、というのが私の考えである。